



金明地区



鶴経と木曾義仲の歴史コース

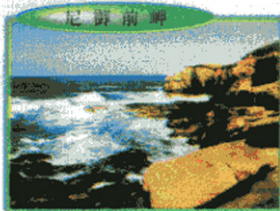
(全長6km・健脚向)

金明地区会館(駐車場・トイレ)⇒大塚町⇒北陸道をくぐる⇒
尼御前岬(トイレ)⇒海岸自転車道⇒篠原新町(トイレ)⇒美盛塚⇒
篠原町⇒畑道⇒金明地区会館

金明竹とスダジイ巨木群をめぐるコース

(全長5km・一般向)

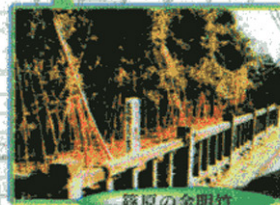
金明地区会館(駐車場・トイレ)⇒塩浜町⇒篠原町(金明竹)⇒宮地蔵寺跡⇒
宮地町⇒小塩辻(スダジイ巨木群)⇒金明地区会館



尼御前岬



篠原古戦場・実盛塚



篠原の金明竹



スダジイ巨木群

スタート・ゴール
金明地区会館

・篠原古戦場(首洗池と実盛塚)

篠原新町に実盛塚があります。斎藤朝光実盛のなきからを奪ったところと伝えられています。寿永2年(1183)篠原の地で木曾義仲軍の武将、手塚太郎光盛が平家軍の武將を討ちとり、その首を近くの池で洗ったところ、木曾義仲は昔、自分の命を助けてくれた斎藤朝光実盛であったことに深い悲しみを覚え、義仲はそのなきからを丁重に奪ったとされています。

・尼御前岬と国定公園

国定公園加賀海岸のちょうど真中あたりにこの岬があります。この岬は天晴とともに小堀、植立の海水浴場を内側に、茶色や黄色の岩石の肌がそのまま露出しており単調な砂浜が多い加賀海岸には珍しく男性的な風景を醸成しています。この尼御前岬には、いくつもの伝説があり、次の話もその一つである。山伏の姿に身をやつて、都を落ちて陸奥の国へ急ぐ義経主従の中に一人の尼がいました。明日の旅路にかかる安宅の関の難しさを耳にし、女なるがゆえに足手まといになるのを憂えて、深く息を吐き、主君の安泰を祈ってこの岩頭から身を投げました。この尼の名前が尼御前といい、それ以来いつしかこの岬を尼御前岬と呼ぶようになった。

・十村屋敷跡とスダジイ巨木群

小塩辻町公民館前にスダジイ巨木が群生している。江戸時代に活躍した十村役、篠野小四郎の屋敷跡である。いずれもスダジイの巨木がみられる。最も大きいものは、幹の周囲が8.6m、樹高22mで樹齢700年と推定されている。環境庁調査では、3本が1つになったものでは、幹の周囲10.5m、樹高21mが記録されている。

・篠原の金明竹

明治9年に篠原町の真竹林に突然変異のように発生した竹の異種で、緑色の茎に黄金色の条があります。竹の子は6月～7月に出土しますが、一つの節間において黄金色の位置が、これと隣接する節間と、180度隔てた裏側に交互に位置する珍しい竹で、昭和2年に国の天然記念物に指定されました。一度かたかったこともありましたが、管理保存会が努力を重ね、現在では、以前にも増してりっぱな竹になっています。